

幼 児 の 姿	教 師 の 願 い と 援 助
<ul style="list-style-type: none"> ・入園当初から、明るく元気で好奇心旺盛な幼児が多く、友達への関心も強く進んでかかわろうとする幼児、緊張や不安から教師のそばで周りの様子を見ている幼児など、さまざまな姿が見られた。 ・ままごとでごちそうをつくったり、ブロックをつなげていろいろなものをつくったりして楽しむ姿が見られた。友達の様子を見ていた幼児も真似をして同じものをつくったり、自分なりに好きな遊びを見つけ楽しんだり、少しずつ園生活にも慣れ、集団生活でのルールがわかるようになり、守ろうとするようになっていった。 ・友達への関心が深まり、「○○ちゃん、一緒に遊ぼう」と積極的に話しかけている姿が見られるようになってきた。また、友達とのかかわりが増えてくると、言葉が足りないことからトラブルが起きるようになってきた。 ・友達と同じものを身につけたり、一緒に手をつなぎ同じ遊びをしたりと、共に行動することを楽しんでいる。段ボールの囲いを自分達で広げその中で、ままごとでつくったお弁当を並べパーティーをしたり、食べ物屋さんを開いて楽しんだりする幼児の姿も見られた。 ・みんなで行った遠足が楽しかったようで、いすを並べて歌をうたいながらバスごっこをしたり、ももちゃんのボールプールに見立てた新聞プールで潜ったり、掛けたりして楽しんでいた。また、身近な自然物のどんぐりを使い、音楽に合わせてマラカスを鳴らしたり、誰が早く転がるかなど競争しながら、どんぐりころがしをしたりする幼児の姿も見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の様子や一人一人の幼児の家庭環境を踏まえ、スキンシップを多く図ったり、個々に応じたかかわり方をしたりしていくようにした。 ・ままごとやブロックなど家庭で遊んでいるものを用意し、安心して遊びだせるようにした。また、戸外で遊ぶ機会を多く設け、自然物を取り入れながら開放感を味わい、教師や友達とふれあうきっかけづくりをしていった。 ・「○○ちゃんが好きなんだね」など、かかわろうとする姿を十分に認め、さらに広がるようにした。また、友達ができたうれしさに共感したり、トラブルが起きた時には、互いの思いをよく聞き、教師が思いを代弁したりすることで友達とのつながりを感じられるようにしたり、必要な言葉を伝えたりしていった。 ・「友達と一緒にいい」という気持ちを大切に、「なかよしだね」「一緒だと楽しいね」などと声を掛け、かかわっている姿を十分に認めるようにした。また、友達が増えたうれしさを受け止め、共感した言葉掛けをしていくことで、友達とのつながりを感じられるようにした。 ・本日は、みんなで行った遠足での楽しさから遊びを広げていき、“ももちゃん広場”として一緒に遊んだり、自然物を使って遊ぶことで友達とのつながりを感じて楽しめるようにしたり援助していきたい。